

立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）
共同プロジェクト研究
2020年度研究【経過】報告書

研究代表者	所属部局・職		氏名					
	社会学部・教授		水上 徹男 印					
研究課題	トランスナショナルな移住者と社会的結束性に関する社会学的研究							
研究組織 (研究代表者・ 研究分担者) 2021年3月現在	所属研究機関・部局・職		氏名					
	立教大学・社会学部・教授		水上徹男					
	立教大学・社会学部・教授		野呂芳明					
	立教大学・社会学部・准教授		太田麻希子					
	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・特命教授		木下康仁					
研究期間	2019年度 ～ 2021年度							
研究経費※ (上段：支出金額)	2019年度		2020年度		2021年度		総計	
	2,105,784	円	271,656	円		円	2,377,440	円
(下段：採択金額)	2,370,000		1,840,000		1,750,000		5,960,000	

※1円単位で記入

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、第一世代の移住者によるホスト社会への参加および日本からの帰還者による母国での社会活動に関する調査をおこない、移住者による社会的結束性の観点から日本の地域コミュニティの実情を提示することである。バングラデシュとフィリピンを対象に継続的な調査を実施し、トランスナショナルなネットワークの形成や移住者の社会的結束性を推進あるいは阻害する要因を明らかにする。(1)社会的結束性の概念やフレームの整理、(2)トランスナショナルなネットワークと社会的結束についての分析、(3)多文化化の進展が予測される日本社会の諸課題に対する社会的結束性の観点からの考察を実施して、最終的には政策的な提言につなげることを目指す。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[社会的結束性] [トランスナショナルな移住者] [帰還移民]

研究【経過】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

2020 年は、1 月に国際会議を共催した (“Social Cohesion and Urban Ethnicity.” Menzies Building, Monash University, Melbourne. 25 January, 2020.)。しかしながら、その後新型コロナウイルス蔓延状況を受けて、海外渡航ができなくなったため、当初予定していたバングラデシュ調査とフィリピン調査を変更せざるを得なくなった。本プロジェクトの主要な概念である社会的結束性 (Social Cohesion) に関する研究や調査の文献については、引き続き収集して、海外の事例を中心に整理してきている。

新型コロナウイルス蔓延の影響で、現地を訪問してのフィールド調査だけでなく、国内の調査も限定的に展開せざるを得なかった。制約のある状況下であったが、バングラデシュ出身者やフィリピン出身者に対するインタビュー調査を国内で行った。特に今回は、バングラデシュ、フィリピンともに、その象徴的な組織となるモスクや教会を訪問して、日本国内のコミュニティ活動などから社会的結束性の構築の在り方を考察した。主な日程と調査地は以下の通りである。

【国内の調査活動】**■ 外国人住民支援団体 APFS (Asian People’s Friendship Society) 訪問調査**

(参加者：太田、野呂)

2020 年 7 月 17 日に APFS (板橋区大山駅) を訪問して、外国人住民支援の実践や活動の変化について伺った。とくに本団体は、1987 年 12 月の創設時にバングラデシュ人がかかわっており、その後はフィリピン出身者が主要メンバーとして参加してきている。この時、バングラデシュ出身者 3 名にインタビューをして、それぞれの日本にきた経緯やその後の経験などを伺った。コロナショックにより、失業した人が含まれる。

■ フィリピン出身者が中心となっているペンテコステ派教会「リバーオブライフ」訪問調査

(参加者：太田、野呂)

2020 年 11 月 8 日にリバーオブライフ (埼玉県鶴瀬駅) を訪問して、礼拝に出席してから、牧師を含めた 3 名のインタビューを実施した。フィリピン人コミュニティ内での相互扶助の関係などについても話を伺うことができた。

■ バングラデシュ出身者が創設した三郷マスジドおよびバングラデシュ出身者が経営する三郷のスーパーの訪問調査

(参加者：太田、野呂、インタビューの際に水上が zoom で参加)

2020 年 12 月 5 日に三郷地区の調査を実施した。ここには比較的大きなモスクがあり、バングラデシュ出身者が集まる。スーパーの経営者の話では、ムスリムの外国人だけでなく、近隣の日本人も来店する。週末は神奈川や群馬など地方から来店する人も多い。Non-Halal 商品も一部扱っているため、ムスリムが間違えないように分かりやすい表示となっている。口コミや SNS が重要な情報源になっている。オンラインショップも行っている。

三郷マスジドは寄付でできた。イスラムのザカートである。多くの人の三郷のモスク建設を望んでいて、スーパーの経営者が創設することになった。バングラデシュ・コミュニティの何人かのキーパーソンの一人であり、これまでも調査に協力いただいている。

研究【経過】の概要 (つづき)

今後は、本プロジェクトで収集したインタビューデータと併せ、エスニック・コミュニティの形成から変遷までの経緯を整理する。日本社会へのかかわり方などから社会的結束性の度合いについて考察していく。

【研究成果の発表】

2020 年度も例年通りメルボルンの Monash Migration and Inclusion Centre と立教大学グローバル都市研究所、ソウル市立大学共催のシンポジウムを開催する予定であった。2021 年 3 月を予定していたが、コロナ禍で実施を見送った。

成果については、2020 年 7 月の国際社会学会 (Fourth ISA Forum of Sociology, Porto Alegre, Brazil, July 14-18, 2020)でのセッション開催と係わっていたが、この学会も延期となり 2021 年 2 月にオンラインで実施された。日本の大都市のエスニック・コミュニティの実情の把握から、国際会議の参加や開催を行ってきたが、今後も継続する予定である。研究成果を公開する国際シンポジウムを開催するとともに、報告書を制作・発行する。これまで通り、実証データを蓄積、分析結果に基づき社会的結束性を高める要因などを提示、コミュニティの再生に向けた指針を示すことを試みる。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①~④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 水上徹男 「社会学的概念『ソジョナー』の構築 —シカゴ社会学による中国人の洗濯屋にかんする研究—」 『日本都市社会学会年報』 No.38. 2020.pp. 132-147. (査読あり)

Ota, Makiko 2021."Female Workers in the IT-BPO Sector in the Philippines: Possibility and Impossibility for Upward Mobility." *Global Urban Studies* 14. March 2021.

木下康仁 「老齡社会的狭窄小路——作为转折点的 20 世纪 90 年代与当今的问题 (中国語。高齡社会の隘路：岐路としての 1990 年代と現在の課題)」、『日本学研究 (北京日本学研究センター)』、30 号、pp. 51-59、2020.07

木下康仁 「M-GTA の集大成とさらなる進化」、『看護研究』 vol.53, no.7, pp. 528-549, 2020.12

② 木下康仁 『定本 M-GTA：実践の理論化をめざす質的研究方法論』木下康仁著、医学書院、2020.10 (全 398 頁)

水上徹男 「バングラデシュ人 新しい層の流入と第 2 世代以降の定着」 (駒井監修、小林編) 『移民・ディアスポラ研究 9 変容する移民コミュニティ—時間・空間・階層』明石書店,2020. pp.98-100.

④ Tetsuo Mizukami, Session Organizer, (with Andrey Rezaev), “Comparative Research in Transnational Migration,” at International Sociological Association IV Forum of Sociology, Porto Alegre, Brazil, Online. 25 February 2021.

太田麻希子 (2020) 「マニラのスクオッター居住区の女性の就学とその中断—『生き残りの女性化』の中で」日本都市社会学会 第 38 回大会 シンポジウム アジアにおける都市下層の比較社会学—移動／ジェンダー／コミュニティ— 2020 年 9 月 6 日 (オンライン)

木下康仁 (招聘講演) 第 40 回日本看護科学学会学術集会 (教育講演 online) 「看護科学の発展と質的研究方法」 2020.12

木下康仁 (招聘講演) An Introduction to M-GTA (Modified Grounded Theory Approach), Special Lecture, Higher Education Policy Research Institute, Korea University, South Korea (online), February 25, 2021

木下康仁 (招聘講演) “Aging People and Society” (symposium) UNESCO Turkish National Commission for UNESCO, March 22,2021 (online)